

第156回（令和2年 第3・第4四半期）
エイズ動向委員会 委員長コメント

【概要】

1. 今回の報告期間は、以下の約半年間
 - 令和2年第3四半期…令和2年6月29日～9月27日
(以下A、前年同時期を α とする)
 - 令和2年第4四半期…令和2年9月28日～12月27日
(以下B、前年同時期を β とする)
2. 新規HIV感染者報告数は(A) 203件及び(B) 192件 ((α)217件及び(β)246件)
3. 新規AIDS患者報告数は(A) 81件及び(B) 101件 ((α)88件及び(β)93件)
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は(A) 284件及び(B) 293件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが(A) 143件及び(B) 148件
(新規HIV感染者報告数の(A) 約70%及び(B) 約77%)
 - 異性間性的接触によるものが(A) 27件及び(B) 19件
(新規HIV感染者報告数の(A) 約13%及び(B) 約10%)
そのうち(A) は男性18件、女性9件 (B) は男性12件、女性7件
 - 静注薬物によるものは(A) 1件、(B) 1件
 - 母子感染によるものは(A) 1件、(B) 0件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが(A) 44件及び(B) 56件
(新規AIDS患者報告数の(A) 約54%及び(B) 約55%)
 - 異性間性的接触によるものが(A) 12件及び(B) 20件
(新規AIDS患者報告数の(A) 約15%及び(B) 約20%)
そのうち(A) は男性11件、女性1件 (B) は男性17件、女性3件
 - 静注薬物によるものは(A) , (B) 共に0件
 - 母子感染によるものは(A) , (B) 共に0件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和2年7月～12月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数は(A) 9,702件及び(B) 10,166件
(前年同時期確定値(α) 25,175件及び(β) 26,911件)
自治体を実施する保健所以外の検査件数は(A) 5,648件及び(B) 6,189件
(前年同時期確定値(α) 8,646件及び(β) 8,934件)
2. 保健所等における相談件数は(A) 14,856件及び(B) 14,716件
(前年同時期確定値(α) 31,877件及び(β) 31,032件)

【献血の概況（令和2年1月～12月）】

1. 献血件数（速報値）は、5,024,859件（前年同時期4,859,253件）
2. そのうちH I V抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は44件（前年同時期38件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、0.876件（前年同時期0.782件）

《まとめ》

1. 今回報告された新規H I V感染者報告数は、前年同時期と比べ第3四半期、第4四半期共に減少した。新規A I D S患者報告数については、前年同時期と比べ第3四半期は減少、第4四半期は増加となり、両四半期を合計すると前年と横ばいであった。
2. これまでと同様の傾向ではあるが、今回の新規H I V感染者は20～40代、新規A I D S患者は30～50代の報告数が多い。また、10歳代から70歳代までの新規H I V感染が報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 保健所等におけるH I V抗体検査件数は、令和2年第2四半期と比較すると増加したものの、前年同時期と比べ第3四半期（-61%）、第4四半期（-62%）共に減少した。相談件数も同じく、前年同時期と比べ第3四半期、第4四半期共に減少した。
4. 早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、今後も保健所等における無料・匿名のH I V抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。

《令和2年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（速報値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和2年の約1年間
(令和2年1月1日～令和2年12月27日までの四半期ごとの合計)
2. 新規HIV感染者報告数は、740件（過去20年間で、17番目の報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、336件（過去20年間で、16番目の報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,076件（過去20年間で、17番目の報告数）

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが536件（全HIV感染者報告数の約72%）
 - 異性間性的接触によるものが95件（全HIV感染者報告数の約13%）
 - 静注薬物によるものは5件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが186件（全AIDS患者報告数の約55%）
 - 異性間性的接触によるものが56件（全AIDS患者報告数の約17%）
 - 静注薬物によるものは3件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和2年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は68,998件（過去20年間で、19番目の件数）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は66,519件（過去20年間で、20番目の件数）

《まとめ》

1. 速報値ではあるが、令和2年の新規HIV感染者報告数は昨年と比べて減少（R1 903件→R2 740件）し、新規AIDS患者報告数は横ばい（R1 333件→R2 336件）であった。ただし、2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症に伴う検査機会の減少等の影響で検査件数等が減少しており、無症状感染者が十分に把握できていない可能性に留意する必要がある。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが7割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性件数は昨年と比べて増加した。その原因は現時点で定かではなく、引き続き、注視する必要がある。併せて、感染の可能性のある方への医療機関への受診勧奨や、保健所等での無料・匿名検査の利用を呼びかけるなどの取組を行う必要がある。
4. 新規報告数全体に占めるAIDS患者報告者数の割合は約3割であるが、新規HIV感染者報告数の減少により昨年から上昇しており、注視する必要がある。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくため、重要となる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。